

科目名 (英)	経絡経穴学Ⅱ Acupuncture Meridians II	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	60 3	開講区分 曜日・時限
前期						

【授業の学習内容】

身体が異常状態にある際、病態反応の発現するルートが経絡であり、反応が現れるポイントが経穴である。その反応を捉え、異常の原因を診断し、診断にあった施術(刺鍼、施灸)を行うポイントもまた経穴である。このように経絡経穴は、鍼灸治療において診察から施術すべてに関わる重要なものであり、国家試験においても、経絡経穴の知識が問われる出題が15%程占める。

経絡経穴学はⅠとⅡで構成されており、十四経脈の流注、取穴部位、経絡経穴の臨床意義について講義する。このうちⅡでは要穴の応用、心経、膀胱経、腎経、心包経、三焦経、胆経、肝経の経穴、奇経八脈、奇穴、経絡経穴の現代的な研究を扱う。また授業開始時に単元毎の小テストを実施することがある。

齊藤

実務実績 鍼灸院、高齢者施設での診察から治療までの業務に従事
医療系専門学校にて教鞭をとる。

資格 はり師、きゅう師

【到達目標】

鍼灸治療における経絡経穴の意義を理解させ、国家試験と臨床の2つの場面における、経絡経穴の必要な知識と運用力を身につける。なお目標②～③については、心経、膀胱経、腎経、心包経、三焦経、胆経、肝経の7つの経脈を対象とする(③については奇穴も対象とする)。

目標①「要穴」の臨床応用について説明できる。かつ、各要穴となる経穴が答えられる。

目標②経脈名と所属経穴(流注に沿って順番に)を暗唱できる。

目標③各経穴部位の基準となる身体指標(骨や筋など)が答えられる。また、教科書を見て他者の身体で取穴できる。

目標④過去の国家試験問題の出題意図が理解でき、類似問題を解答できる(目標正答率70%以上)。

授業計画・内容

1回目	要穴の応用と要穴表: 国家試験問題の解法と臨床応用方法について理解できる。
2回目	足の太陽膀胱経①(★): 取穴に必要な局所解剖について理解し、観察(触察)ができる。
3回目	【小テスト①】要穴応用 足の太陽膀胱経②: 経穴部位と取穴方法を理解できる。
4回目	足の太陽膀胱経③(★): 指定された経穴の取穴ができる。
5回目	【小テスト②】膀胱経① 足の太陽膀胱経④: 経穴部位と取穴方法を理解できる。
6回目	足の太陽膀胱経⑤(★): 指定された経穴の取穴ができる。
7回目	【小テスト③】膀胱経② 手の少陰心経①・手の厥陰心包経①(★): 取穴に必要な局所解剖について理解し、観察(触察)ができる。
8回目	手の少陰心経②・手の厥陰心包経②: 経穴部位と取穴方法を理解できる。
9回目	手の少陰心経③・手の厥陰心包経③(★): 指定された経穴の取穴ができる。
10回目	【小テスト④】心経・心包経 足の少陰腎経①(★): 取穴に必要な局所解剖について理解し、観察(触察)ができる。
11回目	足の少陰腎経②(★): 任脈・胃経・脾経の胸腹部の経穴部位が答えられる。
12回目	足の少陰腎経③: 経穴部位と取穴方法を理解できる。
13回目	足の少陰腎経④(★): 指定された経穴の取穴ができる。
14回目	【小テスト⑤】腎経 手の少陽三焦経①(★): 取穴に必要な局所解剖について理解し、観察(触察)ができる。
15回目	手の少陽三焦経②: 経穴部位と取穴方法を理解できる。
準備学習 時間外学習	(目標①)単元終了後の復習プリントの実施および要穴表暗記トレーニングが必要です。 (目標②)可能な限り、対象経脈の授業までに繰り返し暗記トレーニング(出力中心の暗記方法)が必要です。 (目標③)「取穴に必要な局所解剖の確認と観察」では、事前に解剖学に関する予習が必要です。単元終了後には復習プリントを実施し、小テストに向けて繰り返し問題を解くことが必要です。取穴に関しては他者の身体を使ってトレーニングしましょう。 (目標④)単元終了後の復習プリントの実施が必要です。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	授業の進行は経絡経穴学Ⅰと同様です。事前・事後の課題への取り組みと、暗記トレーニングを計画的に進めましょう。特にⅡにおいては、国家試験出題頻度の高い要穴の暗記に取り組んでもらいます。これを覚えなければ経穴の得点率向上は見込めません。半期かけてこつこつと覚えましょう。 授業計画: この授業では、自身の身体、クラスメートの身体を実際に触れて、経穴の場所を探すこともします(授業計画の★マークの回)。その際は、対象となる部位を出しやすい服装で臨んでください。また、各単元で設定している事前課題と事後課題は必ず実施してください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 新版 経絡経穴概論第2版 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社
参考書: 解剖学 第2版 河野邦雄・伊藤隆浩 他著 医歯薬出版

科目名 (英)	経絡経穴学Ⅱ Acupuncture Meridians II	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	60 3	開講区分 曜日・時限
前期						

<p>【授業の学習内容】</p> <p>身体が異常状態にある際、病態反応の発現するルートが経絡であり、反応が現れるポイントが経穴である。その反応を捉え、異常の原因を診断し、診断にあった施術(刺鍼、施灸)を行うポイントもまた経穴である。このように経絡経穴は、鍼灸治療において診察から施術すべてに関わる重要なものであり、国家試験においても、経絡経穴の知識が問われる出題が15%程占める。</p> <p>経絡経穴学はⅠとⅡで構成されており、十四経脈の流注、取穴部位、経絡経穴の臨床意義について講義する。このうちⅡでは要穴の応用、心経、膀胱経、腎経、心包経、三焦経、胆経、肝経の経穴、奇経八脈、奇穴、経絡経穴の現代的な研究を扱う。また授業開始時に単元毎の小テストを実施することがある。</p> <p>齊藤 実務実績 鍼灸院、高齢者施設での診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師</p>
<p>【到達目標】</p> <p>鍼灸治療における経絡経穴の意義を理解させ、国家試験と臨床の2つの場面における、経絡経穴の必要な知識と運用力を身につける。なお目標②～③については、心経、膀胱経、腎経、心包経、三焦経、胆経、肝経の7つの経脈を対象とする(③については奇穴も対象とする)。</p> <p>目標①「要穴」の臨床応用について説明できる。かつ、各要穴となる経穴が答えられる。</p> <p>目標②経脈名と所属経穴(流注に沿って順番に)を暗唱できる。</p> <p>目標③各経穴部位の基準となる身体指標(骨や筋など)が答えられる。また、教科書を見て他者の身体で取穴できる。</p> <p>目標④過去の国家試験問題の出題意図が理解でき、類似問題を解答できる(目標正答率70%以上)。</p>

授業計画・内容	
16回目	手の少陽三焦経③(★): 指定された経穴の取穴ができる。
17回目	【小テスト⑥】三焦経 足の少陽胆経①(★): 取穴に必要な局所解剖について理解し、観察(触察)ができる。
18回目	足の少陽胆経②: 経穴部位と取穴方法を理解できる。
19回目	足の少陽胆経③(★): 指定された経穴の取穴ができる。
20回目	【小テスト⑦】胆経① 足の少陽胆経④: 経穴部位と取穴方法を理解できる。
21回目	足の少陽胆経⑤(★): 指定された経穴の取穴ができる。
22回目	【小テスト⑧】胆経② 足の厥陰肝経①(★): 取穴に必要な局所解剖について理解し、観察(触察)ができる。
23回目	足の厥陰肝経②: 経穴部位と取穴方法を理解できる。
24回目	足の厥陰肝経③(★): 指定された経穴の取穴ができる。
25回目	【小テスト⑨】肝経 奇穴①: 奇穴の部位と取穴方法、主治症を理解できる。
26回目	奇穴②(★): 指定された奇穴の取穴ができる。
27回目	【小テスト⑩】奇穴 奇経八脈の概要と反応点、反応帯について理解できる。
28回目	取穴試験の評価ポイントが理解できる。
29回目	国家試験過去問題演習を行い、出題傾向を理解できる。
30回目	定期試験のポイントが理解できる。
準備学習 時間外学 習	(目標①)単元終了後の復習プリントの実施および要穴表暗記トレーニングが必要です。 (目標②)可能な限り、対象経脈の授業までに繰り返し暗記トレーニング(出力中心の暗記方法)が必要です。 (目標③)「取穴に必要な局所解剖の確認と観察」では、事前に解剖学に関する予習が必要です。単元終了後には復習プリントを実施し、小テストに向けて繰り返し問題を解くことが必要です。取穴に関しては他者の身体を使ってトレーニングしましょう。 (目標④)単元終了後の復習プリントの実施が必要です。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	授業の進行は経絡経穴学Ⅰと同様です。事前・事後の課題への取り組みと、暗記トレーニングを計画的に進めましょう。特にⅡにおいては、国家試験出題頻度の高い要穴の暗記に取り組んでもらいます。これを覚えなければ経穴の得点率向上は見込めません。半期かけてこつこつと覚えましょう。 授業計画: この授業では、自身の身体、クラスメートの身体を実際に触れて、経穴の場所を探すこともします(授業計画の★マークの回)。その際は、対象となる部位を出しやすい服装で臨んでください。また、各単元で設定している事前課題と事後課題は必ず実施してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書: 新版 経絡経穴概論第2版 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社 参考書: 解剖学 第2版 河野邦雄・伊藤隆造 他著 医歯薬出版	